

## 第623回

# 九州朝日放送番組審議会議事録

—— 2020年6月度 ——

- ◇ 開催日  
2020年6月15日(月)
- ◇ 議題  
＜テレビ番組＞  
「中山秀征の究極ハウス」  
放送日：2月9日（日）午後1時55分～
- ◇ その他

今回は「新型コロナウイルス」感染拡大防止の観点から、  
委員長以外の委員はテレビ会議システムを利用したリモート参加とした

九州朝日放送株式会社

## 第623回 番組審議会議事録

1. 開催年月日 2020年6月15日(月)午後3時30分～4時50分
2. 開催場所 九州朝日放送 本社役員会議室  
及び「新型コロナウイルス」感染拡大防止の観点から、  
委員長以外の委員はテレビ会議システムを利用したリモート参加

### 3. 委員の出席

委員総数 7名

出席委員数 7名

委員長	池田 勝
副委員長	戸田 康一郎
委員	石井 靖子
委員	守田 有理子
委員	赤木 由美
委員	山崎 靖
委員	中山 裕二

欠席委員数 0名

### 放送事業者側出席者名

代表取締役社長	和 氣 靖
常務取締役	笹 栗 哲 朗
取締役	森 君 夫
取締役 報道情報局長	佐 伯 拓 史
総合編成局長兼ラジオ局長	坂 井 剛
総合編成局 番組戦略部 (プロデューサー)	河 相 大 輔
報道情報局 報道情報センター (ディレクター)	北 島 泰 洋

番組審議会事務局長兼視聴者・広報室長	平 田 晋
番組審議会事務局 (視聴者・広報室)	松 永 俊 郎

#### 4. 議 題

(1) テレビ番組

「中山秀征の究極ハウス」

<放送日> 2月9日(日) 午後1時55分～

(2) 6月・7月 ラジオ・テレビ番組編成状況の報告

(3) 5月 視聴者・聴取者応答状況の報告

(4) その他

#### 5. 議事の概要

委員の意見(概要)

委員からは、

- 「究極ハウス」という題名から、よくある芸能人のお宅紹介のような番組を想像したが、家を紹介しながらゲストの思いや人間ドラマを紹介する粋な設定になっていた。家を通してゲストの素顔や魅力、人間性を堪能できる番組だったし、番組案内役の中山秀征さんの絶妙なりポートが番組をより楽しいものにしていてと思う。
- ブレーク前の綾小路きみまろさんが自らカセットテープを配った話などは初めて見聞きする話で興味深かった。鹿児島のお父さんが家を建てる木材を用意していて、その思いに早く応えたかったという話はとてもいい話だと思った。
- 70歳を目前にした綾小路きみまろさんが大好きな富士山の姿を通じて語る「終活」への思いや、同世代の高齢者を集めてしんみりと人生を振り返るステージを開きたいとの話は、切なさを感じつつも、とても興味深かった。自分自身の今後の人生も考えさせられるような感動的なシーンだった。
- 吉田沙保里さんの実家の場面では、吉田沙保里さんが獲得したメダルや賞状が家中に飾ってある様子が紹介されていた。吉田家の強い絆を感じたし、コロナ禍の今だからこそ、そうした場面を見て「家族愛」を感じる事ができた。
- 吉田沙保里さんの実家は、レスリングという厳しい競技をやっていることをまるで感じさせない温かさで包まれているように感じた。この家、この家族から、強いだけではなく人柄も素晴らしくみんなに好かれる吉田沙保里さんが誕生したのも納得できると思った。  
などの評価を頂きました。

また、気になる点や望むこととして、

- 「究極ハウス」というタイトルから、家の設い(しつらい)やこだわりを紹介する番組かと思ったが、実際には家を舞台にゲストの人生や家族、ヒストリーを描く番組だった。タイトルとコンテンツの印象が異なりもったいない気がした。
- 綾小路きみまろさんが「終活」の話をはじめたところで、突然、吉田沙保里さんの実家の場面に切り替わった。綾小路きみまろさんの話に引き込まれ、盛り上がっていたところだったので、どうしてこうした編集にしたのか疑問が残った。

- 綾小路きみまろさんの自宅を訪問した場面で、家族が全く登場しないのには少し寂しさを感じた。「きみまろ茶屋」は単なるグッズ紹介のように感じられた。番組としての必要性はなかったように感じた。
- CM前後に重複する映像が繰り返し紹介され、全体的にくどく感じた。実際の放送時間よりも長く感じたし、なかなか番組に入り込んでいけずに残念に思った。

などの批評や提言を頂きました。

これらに対して、担当者からは、

- 「究極ハウス」という番組タイトルについて、もう少し内容をイメージしやすいタイトルにするやり方もあると思う。しかし、番組の「入り口」と「出口」で視聴者へ異なる印象を与えることができれば、番組の満足感やお得感につながる。そうした目的で「入り口」は少し趣の異なるタイトルにしている。
- 吉田沙保里さんの実家の紹介をまとめて前半に構成し、綾小路きみまろさんのお話は後半にまとめるという考えもあったが、綾小路きみまろさんの自宅はテレビでは20年ぶりだったので、番組の冒頭でも少し見せたいという考えから、綾小路きみまろさんのエピソードを2つに分けて展開することにした。
- 綾小路きみまろさんほど大勢の高齢者を見てきた人物が自らの「終活」をどのように考えているのかは、番組スタッフが自ら取材して掘り出してきたことであり、一番伝えたいことだった。目玉の場面を見てもらうために視聴者を引っ張る展開にしたが、実際には「ぼやけた」とのご意見は真摯に受け止め、日々の番組制作に役立てたい。
- 綾小路きみまろさんは配偶者と同居しているが、一般の方で出演はお断りされたので、中山秀征さんと綾小路きみまろさんの2人だけが登場することになった。
- 「きみまろ茶屋」にも趣味で集めた骨董品が展示されていると聞き、自宅とは別に「茶屋」から見えるきみまろさんの人生ドラマがあるのではないかと取材を行った。また、「きみまろ茶屋」で扱う商品は高齢者のニーズに応えられると思い紹介することにした。
- 「重複する映像が繰り返し紹介された」とのご指摘だが、日曜日の昼にザッピングをしながらテレビを見る視聴者を前提に番組を制作した。番組を最初から見ている視聴者を置き去りにしたと言う反省は否めない。

などの説明をしました。